

令和 7 年度京ホ連アンケート調査 概要

調査期間：令和 7 年7月15日(火)～7 月 25 日(金)

回答数：32 事業所／37事業所中(回答率86.4%)

2.訪問介護員の状況について (P2)

(1) 配置状況について

・非常勤職員(専任)が全体の 64.5%を占める。⇒非常勤職員を中心とした支援、人材育成の必要性

(2) 職員の年代について (正規職員 平均年齢：54.0 歳 非正規職員 平均年齢：62.0 歳)

・60 代の職員(常勤・非常勤含む)が最も多く35.3 %(正規 23 人、非正規94人)を占めており、60 代以上の職員は全体の54.3%となっている一方で、30 代以下は 6.6%に留まって

いる。⇒職員の高齢化、若い世代の人材不足

(3) 職員の経験年数について

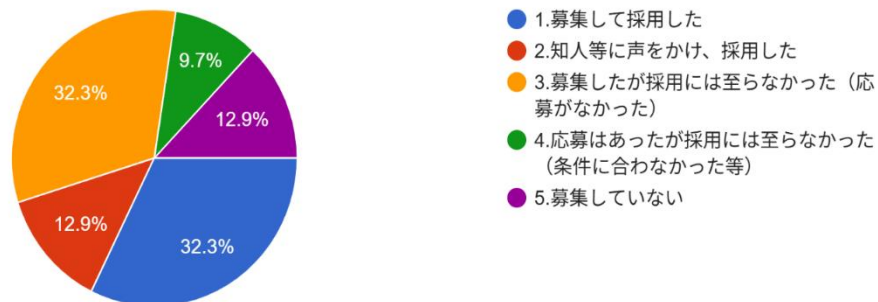
・1 年未満の職員が17 人に留まっている。⇒人材確保の難しさ

3.人材確保の状況について (P3)

(1) 求人状況について

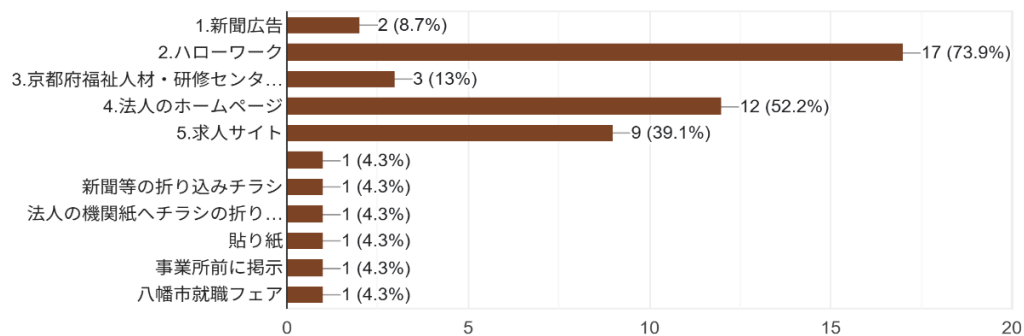
求人状況について

31 件の回答



上記1.3.4と御回答した方はどちらに求人を出されましたか

23 件の回答

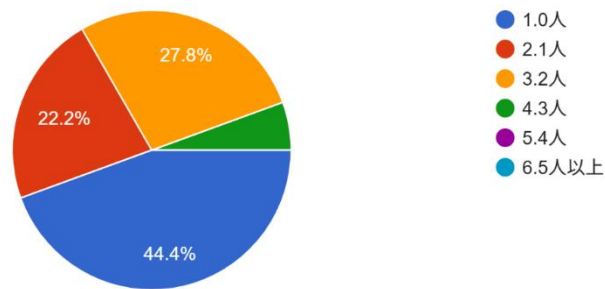


・上位求人方法は①ハローワーク 17 件(73.9%)

②法人のホームページ12件(52.2%)

③求人サイト9 件(39.1%)

上記求人団体に募集を周知して何人の募集がありましたか
18件の回答



- ・上位求人募集人数は①0人(44.4%)
②1人(22.2%)
③3人(27.8%)

(2) 人材確保のために有効だと考えられる方策

- ・全体的にどの方策も優先度が高い傾向となっている。

(3) 職員不足を理由として新規利用を断った回数。

- ・27事業所(全回答30件)が新規利用を断ったケースがあり、多い事業所では30回以上依頼を断っている。⇒人員不足

(4) 学生・若手に向けてホームヘルパーの魅力発信

- ・職場体験や出前講座などで気軽に訪問介護の仕事に触れる機会の検討。
- ・SNSやパンフレット等での魅力発信。

(5) 人材確保についての現状や要望

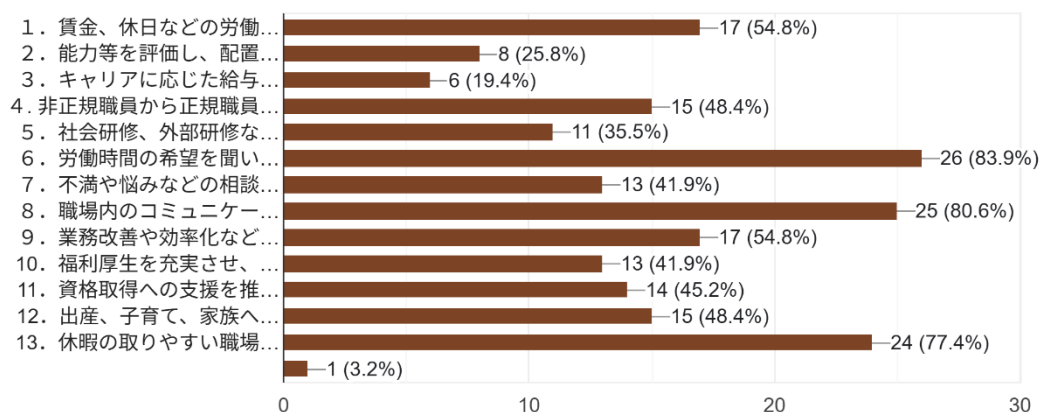
- ・人材確保の難しさ。
- ・ホームヘルパーの仕事の魅力発信。
- ・賃金、移動手段・時間について。
- ・資格の取り扱いについて、潜在的有資格者の発掘。
- ・ホームヘルパーという仕事の魅力・特性について。

4. 人材定着のための取り組みについて (P5)

(1) 人材定着のための取り組みについて

① 離職防止、人材定着のために行っている取り組みについて○を御記入ください。(複数回答可)

31件の回答



- ・「6.労働時間の希望を聞いている」26 件(83.9%)が最も多く、「職場内のコミュニケーションの円滑化を図っている」25 件(80.6%)「休暇の取りやすい職場環境の充実を図っている」24 件(77.4%)が続く。

⇒3(2)の③については職場でも積極的に取り組まれている。①②(「賃金の大幅アップ」「世間的な介護職へのイメージアップ、社会的地位の向上」)への対応が必要。

(2) 上記の方策について特に効果が高いと思われる取り組みについて

- ・ 家庭事情に配慮した勤務を組むことで休みを取りやすくしている(希望に沿っている)
- ・ 資格を取得する為の支援をしている(介護福祉士、介護支援専門員等)。
- ・ 必要物品の配布(熱中症対策 感染症対策グッズなど)

(2) 人材定着のための取り組みとして課題に感じていること、要望等

- ・ 一部の人が働きやすい環境ができて、誰かが犠牲になり事務作業をしたり、シフトを組むために長時間を要している。
- ・ 非正規職員から正規職員へ転換を行っても続けていくのは難しい。

5.人材育成の状況について (P6)

(1) 研修の機会について

- ・ 非常勤、常勤ともに、研修の機会が十分に確保できていると回答している事業所は半数。

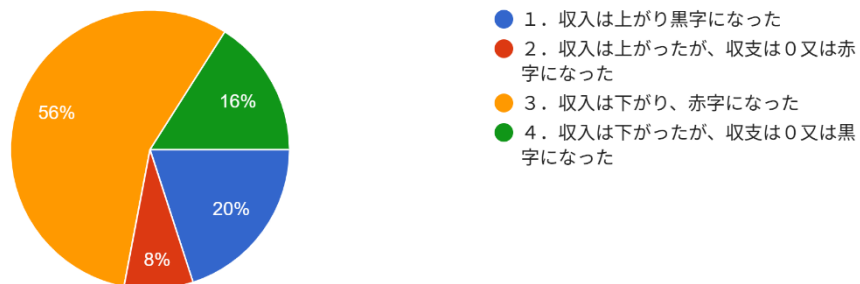
(2) 研修の機会を十分に確保できない理由

- ・ 常勤・非常勤・サ責ともに「派遣時間の確保が困難」であるためが多数を占める。

6. 令和 6 年度報酬改定の影響について (P7)

(1) 報酬改定による収入の変化

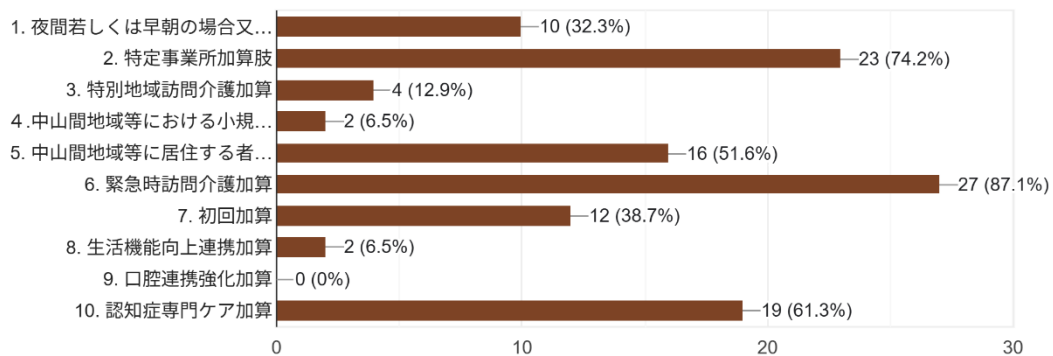
① 令和6年度の報酬改定で、訪問介護の基本報酬は...報酬改定後、収入はどのように変化しましたか。
25 件の回答



(2) 取得している加算について

② 下記加算で取得しているものに全てにご回答ください

31 件の回答



・緊急時訪問介護課加算27事業所(87.1%)が最も多く、口腔連携強化加算については取得している事業所は0事業所に留まった

・加算をとるための手間や利用者への負担を考えると難しいとの意見が多数

(3) 上記加算について、課題に感じていること

- ・現在とっている以前の加算は現実的にとるのが難しい。
- ・特定事業所加算を取得するため毎月研修を実施しているが考える時間、余裕もなく難しい。
- ・加算を取得する為への条件の負担が大きい。
- ・時間が足りない。

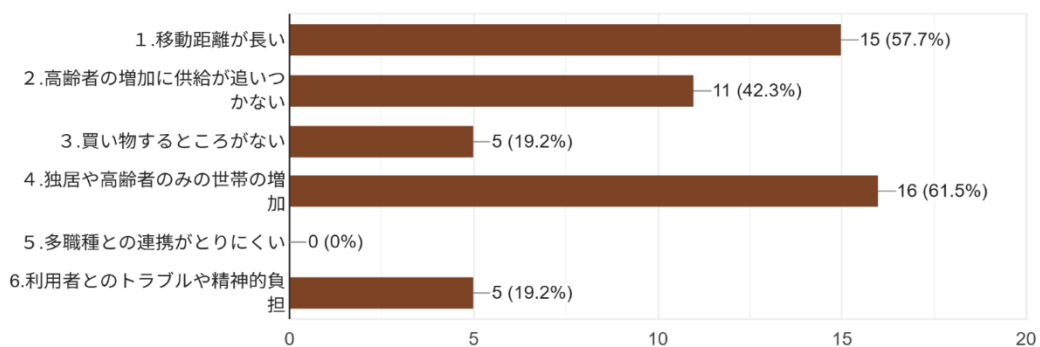
7. 地域性による課題、利用世帯に関する複合的な課題について (P8)

(1) 地域課題について

①

訪問介護事業をすすめるうえで感じている困りごと...ことについて下記選択肢から御入力ください。

26 件の回答

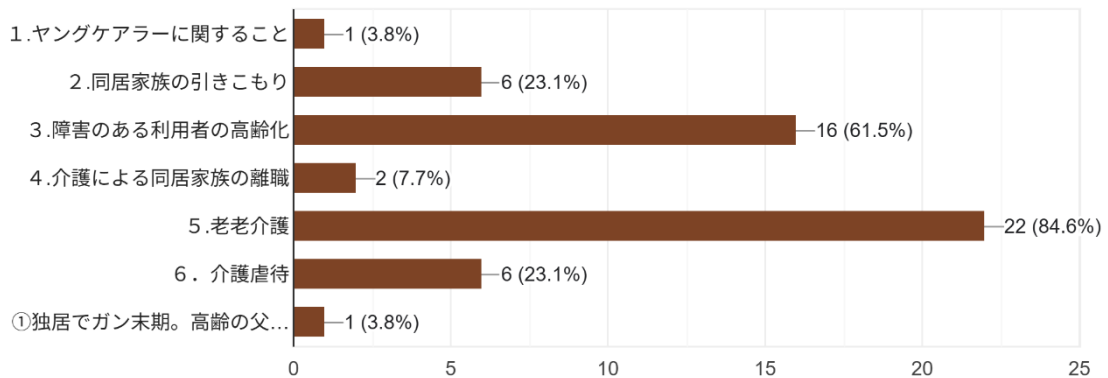


・「独居や高齢者のみの世帯の増加」16事業所(61.5%)、「移動距離が長い」15事業所(57.7%)
「高齢者の増加に供給が追いつかない」11事業所(42.3%)、が全体の傾向課題として多くあげられた。

(2) 複合的な課題について

②貴事業所で訪問介護を展開するうえで、把握され...要と考える支援体制について御入力ください。

26 件の回答



・「5.老老介護」22事業所(84.6%)、「3. 障害のある利用者の高齢化」16事業所(61.5%)が課題としてあげている。続いて「2. 同居家族の引きこもり」6事業所(23.1%)「6. 介護虐待」6事業所(23.1%)があげられている。⇒家にあがる“専門職”としての関わり、地域における支援ネットワークの形成。

8. 生産性向上のための取り組みについて (P9)

(1) ICT 活用について

・介護記録の電子化をしている事業所が14事業所、来ていない事業所が7事業所となり、前年度と比較して電子化が進んでいる事業所が増えていることが分かった。

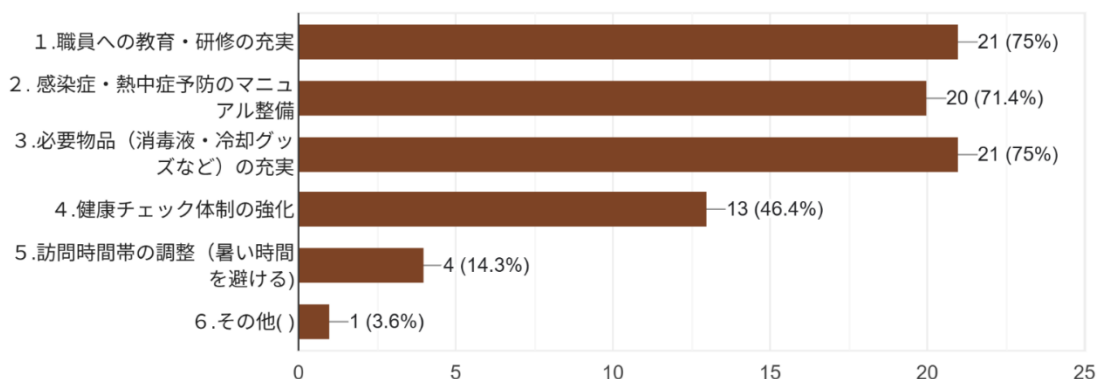
(2) 事業所で取り組んでいる ICT 活用について

- ・記録を電子化、請求ソフトと連動している。
- ・介護記録の一部はデータ管理している。

9. 事業所における感染症・熱中症対策について (P9)

①事業所として感染症・熱中症対策のために、強化...いて下記から選択してください。(複数選択可)

28 件の回答



(2) 感染症・熱中症対策のうち、困っていることや課題について

- ・電気代を気にされているのかエアコンを全く使用されない利用者がある。
- ・車での移動が暑すぎる。
- ・エアコンがないところでの調理。

10.おわりに(京都府・国への要望)(PIO)

- ・介護報酬の見直し、賃金の引上げ
- ・労働環境などの処遇改善
- ・人材確保のための方策
- ・介護職の魅力発信、社会的地位の向上
- ・感染症、熱中症対策について